

# 臼杵市公立学校のあり方検討委員会としての考え方 (案)

臼杵市独自の取り組みである「小中一体教育」の成果を生かし、今後の少子化や学校施設の老朽対策も視野に入れ、それぞれの中学校ブロックを基本とした「小中一貫校」(施設一体型、施設隣接型、施設分離型)の設置を進め、更なる教育効果の向上を図っていくことが重要と考える。

また、学校施設については、建設から年月が経過している校舎もあることから、教育環境の改善に取り組んでいただきたい。特に、市浜小学校及び西中学校に関して、早急に対策を講じていただきたい。

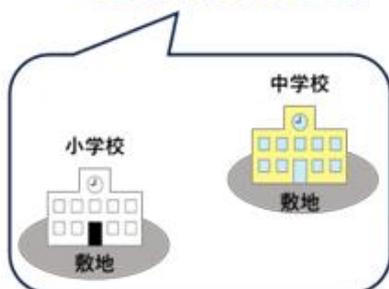
## <用語の説明>

### 小中一貫校:

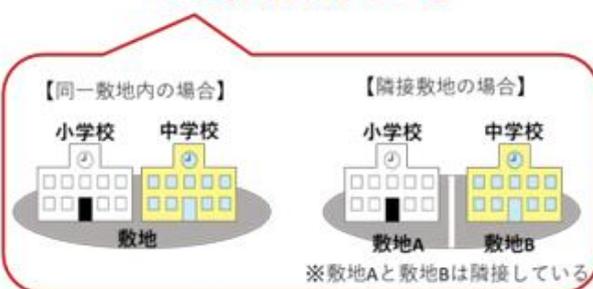
小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育を行う学校です。組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれの学校に校長、教職員組織があります。

小学校と中学校の校舎の設置状況により、「施設分離型」や「施設隣接型」や「施設一体型」と呼ばれる形態があります。  
【施設形態は、「小中一貫した教育課程の編成実施に関する手引き(H28.12.26 文部科学省)」を参考】

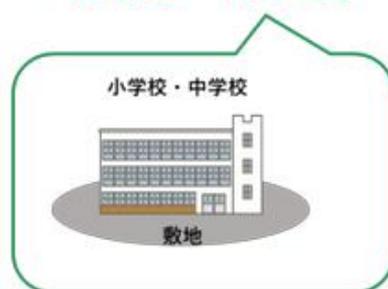
#### 「施設分離型」



#### 「施設隣接型」



#### 「施設一体型」



### 義務教育学校:

義務教育の段階である小学校から中学校までの9年間を一体的に管理・運営する学校です。一つの学校なので、一人の校長で、一つの教職員組織となります。

また、9年間の区切りを5-4年、4-3-2年に区切る(ユニット制)など、学校ごとに異なります。

これまでの臼杵市の「小中一体教育」は「施設分離型小中一貫校」の教育とほぼ同じ内容と言ってよいものです。

